

近畿大学農学部×八尾市役所 「大和川の変遷について」講演会

1 月 31 日(土)八尾市新大正コミュニティセンター等オープン

大阪府八尾市では、大和川に隣接する場所に、『八尾市立新大正コミュニティセンター・新大正出張所・水防センター』の 3 つの機能を有する複合施設をオープンしました。そのオープン記念として、近畿大学農学部環境管理学科（奈良県奈良市）の教授 2 名（細谷和海、坂上吉一）が、平成 27 年(2015 年)1 月 31 日(土)に「大和川の変遷について」をテーマに、「環境・生物」の視点から講演会を開催いたします。

【本件のポイント】

- 講演会を通して、八尾市の幅広い世代の方々に大和川への理解を深め、愛着を高めていただく機会とする
- 八尾市と近畿大学農学部で「若林地区・太田地区かわまちづくり」の覚書を締結しており、地元の方々に環境教育など支援活動を行う

【本件の概要】

■日 時：平成 27 年（2015 年）1 月 31 日（土）

■プログラム：第 1 部 記念講演会「大和川の変遷について」 14：00～15：00

講師：近畿大学農学部環境管理学科 教授 細谷 和海

近畿大学農学部環境管理学科 教授 坂上 吉一

会場：八尾市立大正コミュニティセンター

（八尾市若林町 3-27、大阪市営地下鉄谷町線「八尾南」駅から徒歩約 5 分）

第 2 部 「水防団による水防工法の実演会」 15：00～16：00

会場：若林第 2 公園

（八尾市若林町 3-28、大阪市営地下鉄谷町線「八尾南」駅から徒歩約 5 分）

■対 象：地域住民（八尾市に在住、通勤、通学者限定）（定員 100 人（申込終了）、入場無料）

■お問合せ：八尾市政策企画部政策推進課

Tel. (072) 924-3816 Fax. (072) 924-3570

[Mail. seisakusuisin@city.yao.osaka.jp](mailto:seisakusuisin@city.yao.osaka.jp)

【本件の背景】

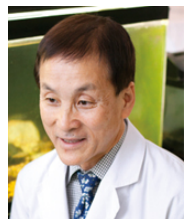
八尾市と近畿大学農学部は、平成 26 年（2014 年）8 月 1 日（金）に『「若林地区・太田地区かわまちづくり」における環境教育・環境研究等活動』に関する覚書を締結しました。これに基づき、近畿大学農学部は「かわまちづくり事業」における環境教育・環境研究活動等として、わんどの改善や活用に関する助言、地域や小学校と連携した大和川に関する水生生物観察会等、様々な支援を行っています。また、農学部のキャンパスの立地上、大和川の上流域に位置する富雄川に隣接していることもあり、広域的な視点をもって取り組みを進めています。また、今回は八尾市が整備を進めてきた、新大正コミュニティセンター・新大正出張所・水防センターの 3 つの機能を有する複合施設が、平成 27 年（2015 年）1 月 25 日（日）に開設されたことを受けての記念講演会です。本講演会は、当該覚書に基づき『「若林地区・太田地区かわまちづくり」における環境教育・環境研究等活動』の一環として身近にある大和川への関心と理解を深めていただくことを目的に実施します。

※わんど：川の本流から離れた水の流れがゆるやかになっているところで、たくさんの生き物が生息する場。川に生息する魚にとって産卵や成長に適した環境であり、“魚のゆりかご”とも例えられます。

【講演内容】

「魚類からみる大和川の変遷」 近畿大学農学部環境管理学科 教授 細谷 和海

かつて、大和川には 50 を越える魚種が生息していました。これは、都市河川としては、非常に多い数値です。しかし、現在では 14 種しか生存を確認できていません。今回は、ヨシノボリ類の生息分布から大和川の自然度を計り、昔ながらの大和川を取り戻す方法について考えます。



細谷 和海教授

「環境からみる大和川の変遷」 近畿大学農学部環境管理学科 教授 坂上 吉一

大和川は、生活排水および工場排水等の影響で、一時期は水質悪化が問題となり、水生生物等への悪影響が懸念された時期がありましたが、現在は著しく改善されています。どのように大和川の水質が改善されたのかを解説します。



坂上 吉一教授

【「若林地区・太田地区かわまちづくり」とは】

八尾市では、国土交通省の支援事業「若林地区・太田地区かわまちづくり」において、身近にある大和川への関心や理解を深める取り組みを進めており、その中で、川とふれあう環境学習や啓発を行う場として、「大和川わんど」が整備されました。この「大和川わんど」を活用して、子どもから高齢者までの幅広い世代に、大和川を地域資源の「わがまち・わが川」として再認識していただくことを目指すとともに、これらの取り組みを通じて世代間交流が深まり、地域コミュニティがより醸成していくことを目標として、「環境を守る」「生物を守る」「地域を守る」を視点に、今後、様々な取り組みを進めてまいります。



大和川のわんど（平成 27 年 1 月）

大和川水系

流域面積	1,070km ²
幹川流路延長	68km
年間平均降雨量	約1,258mm
年間平均総流出量	8.1億m ³
流域市町村	38
流域内人口	約215万人
氾濫区域内人口	約400万人
氾濫区域内資産	約69兆円



大和川下流域を水害の危険性から守る

水害がひそむ大和川…もしも予想を越える大洪水が起きたら、堤防は壊れてしまいます。



■淀川・大和川と周辺地域の高さ（府道中央環状線付近の断面）



出典：国土交通省近畿地方整備局 大和川河川事務所